

# 令和3年度決算の概要

令和3年度の新潟市病院事業（税抜）は、事業収益260億2,950万円に対し、事業費用265億7,025万円となり、差引 5億4,075万円の純損失（赤字決算）となりました。期末時点における累積欠損金は55億5,222万円となっています。

本業の決算である医業収支について、医業収益は206億4,371万円となり、令和2年度決算に比べて5億5,031万円の増となりました。

そのうち入院収益は、1日あたり患者数が7人増、単価は589円増となり、3億272万円の増でした。また、外来収益は、1日あたり患者数が35人増、単価は245円増となり、2億3,790万円の増となりました。

医業費用は250億411万円となり、令和2年度決算に比べて3億4,737万円の増となりました。主な要因は材料費が2億7,582万円、経費が1億5,408万円の増となったことです。

その結果、医業収支は43億6,040万円の赤字となりましたが、前年度に比べ2億293万円良化しています。

令和3年度も、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、平時と比較して入院患者は減少しており、全病床利用率は76.0%と前年度を1.0pt上回ったものの、未だ80%を割っており、コロナ前の水準には程遠い状況です。

今後も感染症の終息が見えないなかで、未だに経営環境は厳しい状況ですが、感染症にしっかり対応しながら、病床利用率の向上などを図り、健全な経営改善に努めていきます。

